

Articles

Conferences
& LecturesResearch
Activities[東洋文庫アジア資料学研究シリーズ 2015年度]
コディコロジー研究特別報告会

東洋文庫所蔵本 紙質調査報告

1 概要

2015年11月4～6日、11～13日の間、東洋文庫研究員江南和幸・石塚晴通両氏が文庫所蔵18世紀ヨーロッパ刊本、および国宝4点・重要文化財1点の紙質調査を行った。調査では、高精細デジタル顕微鏡を用い、従来の光学顕微鏡と異なった方法で紙質の観察ができた。この方法によって、原資料を傷つけず、かつ広い面積にわたり焦点が合った写真を取得し、紙の表情を読み取ることが可能となった。そのため、新しい発見が多数得られ、東洋文庫アジア資料学研究シリーズの一環として、特別報告会「東洋文庫所蔵本 紙質調査報告」を開催した。

「はじめに」においては、若手研究員徐小潔氏が調査経過、調査方法および使用した機器—高精細デジタル顕微鏡（デジタルマイクロスコープ）について簡単に紹介した。

次に、江南和幸研究員が主に18世紀ライプツィヒから出版された本に焦点をあて、当時のヨーロッパ刊本に使われた紙を分析した結果、中国紙が用いられていることを報告した。この発見によって、これまでの出版史の枠を超え、「紙からみた出版」を追求することが可能となった。また、社会経済史の面においては、東西間における紙の流通が新たな課題として浮かび上がり、今後その実態を明らかにする必要がある。

つづいて石塚晴通研究員は、まず2013年9月に、龍谷大学の協力によって行われた東洋文庫所蔵本の調査結果を報告したのに続き、2015年11月の国宝4点・重文1点の調査について報告し、国宝『文選集注卷第八十八』のみが日本製楮紙であり、国宝『春秋経伝集解』は中国製樹皮紙（桑交青檀紙）、国宝『毛詩』、国宝『古文尚書』、重文『礼記正義』は中国製構紙であることについて解説した。また、『古文尚書』と『礼記正義』における青訓点は麻布片によるもの、『礼記正義』の朱点は樹葉片であることが判明し、興味深い結果となった。最後に石塚氏は、高精細デジタル顕微鏡を用いて観察することによって、「字体・書式（版式）・料紙」は「受容・本文等の要素の公私・精粗の度合」と比例することが判明しつつあると新しい手法による文献研究の可能性を示した。

その後、フロアより国会図書館、印刷博物館などの関係機関からの参加者が質問をあげ、コディコロジー研究に関する今後の課題について議論を深めることができた。

2 プログラム

日時 2016年1月26日（火） 14：30～17：30
会場 東洋文庫2階 講演室
司会 濱下 武志（東洋文庫研究部長）

14：30～14：50 はじめに 調査経過および機器の説明
徐 小潔（東洋文庫若手研究員）

- 14：50～16：00 東洋文庫 18 世紀ヨーロッパ刊本に用いられた紙の分析
江南 和幸（東洋文庫研究員・龍谷大学名誉教授）
- 16：10～17：00 東洋文庫善本叢書所収本の料紙調査報告
石塚 晴通（東洋文庫研究員・北海道大学名誉教授）
- 17：00～17：30 総合討論

3 講演内容

はじめに 調査経過および機器の説明

徐 小潔
(東洋文庫若手研究員)

1. 調査経過について

- ・実施期間：2015 年 11 月 4～6 日, 11 月 11～13 日
- ・実施場所：東洋文庫 7 階 第 3 会議室
- ・調査対象：東洋文庫所蔵洋書, 国宝 4 点・重要文化財 1 点

1) 18 世紀洋書調査 (11 月 4～6 日, 13 日)

- ・対象：ライプツィヒで出版された洋書 (計 7 冊)
- ・方法：①紙質の目測—watermark の確認 (本文と附図)
②高精細デジタル顕微鏡による観察
③紙の厚さの測定

2) 国宝 4 点・重要文化財 1 点の調査 (11 月 11～12 日)

- ・対象：①国宝『春秋経伝集解』卷第十
②国宝『毛詩』卷第六残卷
③重文『礼記正義』卷第五残卷
④国宝『古文尚書』
⑤国宝『文選集注』卷第八十八
- ・方法：高精細デジタル顕微鏡による観察

2. 機器の説明

高精細デジタル顕微鏡—デジタルマイクロスコープ VHX-500 (キーエンス社)

- ・特徴：①資料を傷つけずに非破壊検査を行える
②紙の表情 (モルフォロジー) が取得できる

1) 撮影される写真の種類

- ・2D 写真
100 倍, 200 倍, 500 倍が最も用いられる
標準写真を撮影する上, さらに各倍数の高精細写真を撮影。通常各 2 枚で, 計 6 枚